

平成29年度 教職員自己評価 ー重点目標に対する評価ー

評価の基準	A：十分に達成できた	B：概ね達成できた	C：あまり達成できなかった
-------	------------	-----------	---------------

重点目標1 確かな学力を身につけた人間性豊かな生徒の育成 ー「勉強プラスワン」の深化・充実ー 【評価B】

- ①授業や指導方法の工夫改善により自ら学ぶ態度を育成し、学力の伸長を図る。
 - 教科指導を工夫改善し、きめ細やかな授業を行っている。朝の学習会や土曜学習会などでも継続して指導し、学習機会・学習時間を増やすよう、自主学習の定着を図った指導を行っている。
 - 学習アンケートでは、家庭学習時間が短い生徒が確認でき、家庭学習の時間を確保するのが難しいという生徒も見られる。今後も、生徒の家庭学習時間の確保や主体的な学習習慣の確立に向け、学校全体で組織的に対応していく。
- ②気力、体力を充実させるとともに、品位ある生活態度を涵養し、知・徳・体の調和のとれた生徒を育てる。
 - 部活動への加入率が高く、積極的に活動する生徒が多い。また、運動部・文化部ともに全国大会・関東大会へ多数出場し、多くの部活動が実績を上げている。
 - ほとんどの生徒が学校行事に熱心に取り組み、多くの生徒が校内外のボランティア活動・奉仕活動等に積極的に参加している。明るく挨拶を交わし、元気に学校生活を送る生徒が多い。

重点目標2 進路実現を目指したキャリア教育の充実 【評価B】

- ①自己の在り方生き方について考えさせ、社会的・職業的自立に向けて必要な能力を育成する。
 - 1年時から学年担任と進路指導部が連携し、生徒の職業意識や社会性を育成している。こうしたことが、生徒にとって自己の興味・関心や将来就きたい職業と求められる学力などを考える良い機会となっている。また、総合的な学習の時間・LHRの時間に実施している「大学出張講座」や「職業観育成講座」等も、さらなる進路意識の向上を目指しており、充実したものとなっている。
 - 3年生が進路を決定するにあたり、生徒各自がそれまでのキャリア教育の成果を実感し、納得できる進路実現を果たせるように、教員が協力・連携をさらに深め、組織的に指導していく。
- ②3年間を見通し、個に応じた指導を充実させ、進路選択への主体性・積極性を醸成する。
 - 学年・教科や進路指導部などの各々が連携し、生徒の進路希望を実現させるための指導が行われた。
 - 教員による「個に応じた指導」を一層充実させ、生徒自身が「個の弱点や必要性に応じた対策」を自ら立てられるように導く。

重点目標3 生徒の学びを支える魅力ある教育環境づくりの推進 【評価B】

- ①教職員一人ひとりが資質能力の向上に努め、校務全般にわたって組織的に対応する。
 - 「アクティブラーニング」等のよりよい教科指導法などを取り入れるなど、一人ひとりが資質向上に努め、生徒をサポートする。「組織としての指導体制」をさらに強化していく。
 - 授業法や試験問題作成における教科内の連携をはじめ、生徒への課題の出し方等で教科間の連携を図るなど、教育環境にかかわる諸問題について、教科・学年・校務分掌の枠をこえた取り組みをする。
- ②安全・安心な学校づくりを目指し、意識の高揚、体制の整備に努める。
 - 「いじめ・体罰アンケート」実施や「いじめ防止啓発」指導などで、未然防止・早期発見に努めている。定期的な「安全点検」や日常の清掃作業等で、校内の安全・衛生が保たれている。
 - 学校メール一括配信システムやホームページにより、緊急時の速やかな情報発信等ができるようになっており、保護者からも一定の評価を受けている。
- ③交通事故防止と交通マナーの向上などの安全教育の徹底を図る。
 - 自転車の乗り方・マナーの向上や自動車との接触等の交通事故の防止、不審者への対応など、登下校時等の安全意識の高揚に向け、継続的に指導していく。